

平成28年度 施策評価シート

基本目標	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	420 地域で支えあいながら、いきいきと暮らせるしくみをつくる
施策	421 福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する
施策の目標	地域全体で、地域や福祉サービスのあり方を考え、地域の福祉課題を解決する意識をもち、地域活動への主体的な参加が行なわれています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
すみだボランティアセンター・ボランティア登録者累計数	人	700	684	481	635	785	491
	団体	80	63	57	52	54	52
「地域の福祉活動に参加したことがある」区民の割合	%	20					

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小地域福祉活動事業の実施状況	地区	16	16	19	22	27
ハートライン21(会員制在宅福祉サービス)利用数	会	4,522	5,343	5,678	5,033	4,736
隅田川花火大会障害者特別観覧席 参加者	人	247	257	244	262	256

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>ボランティア活動や小地域福祉活動のPRとともに、地域福祉の担い手の発掘・育成や、効果的なコーディネート体制の構築を通じて、活動に参加しやすい仕組みづくりが求められている。</p> <p>成果指標に挙げたボランティア登録者は、近年高齢化が進んでおり、今後は若年層を取り込む工夫が求められる。地域福祉活動は、地域での活動数の増加など、少しずつ取り組みの成果が上がっている。</p> <p>「ハートライン21」などの有償ボランティア活動は、平成23年4月から利用時間の拡大を行い、利用者数・利用回数とも増加傾向にある。</p> <p>あわせて、障害者に対する理解が促進されるよう、啓発事業等を継続して実施していく。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>福祉課題が山積する今日、地域福祉の増進は重要なテーマである。今後は、ボランティアセンターの相談機能やコーディネート体制等の更なる充実を図り、区民のボランティア活動を着実に推進し、新たな地域福祉の担い手となる人材を発掘・育成や、地域での小地域福祉活動や「ふれあいサロン」の実施などを通じ、地域福祉活動への積極的な参加を促していく必要がある。また、障害者を支えるさまざまな法律が整備されてきた中で、一般の方が障害者への理解を深めるための、継続的な啓発が必要である。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>民生委員・児童委員活動のPR、小地域福祉活動の活動地域の拡大など地域福祉に関する担い手づくりの強化に努める。また、障害者問題啓発事業において、毎年度の実施状況を踏まえ、適正に実施していく。</p>

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 1

作成年月日: 平成28年6月1日

事務事業名	隅田川花火大会障害者特別観覧席開放事業		所管課・係	障害者福祉課・庶務係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6466
予算書名称	障害者問題啓発		執行実績報告書ページ	91-16

1 事業の概要

平成4年から事業を実施し、桜橋デッキスクウェアに障害者を招待している。参加希望者全員を招待することは厳しく、抽選での招待席となっている。 根拠: 区長単行決定	事業開始年度	平成4年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住の身体障害者手帳または愛の手帳の取得者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
隅田川花火大会の実施に伴い、安全な場所(桜橋デッキスクウェア)に障害者特別観覧席を設置	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者が安全に参加できる環境を作り、その他の区民行事にも参加する意欲を高める	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	参加者	人	目標値	230	250	230
			実績値	244	262	256
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
隔年で表番と裏番があり、表番での開催時には会場スペースが3分の2程度になるため、目標値に変化が生じている。 例年、定数を上回る応募があり、抽選の上、参加者を決定している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度 歳出予算額	72	27年度 歳出決算額	71	27年度 執行率	98.6%	28年度 歳出 予算額	72
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
例年、会場は大変混雑しており、障害者の安全面を考慮すると必要性は高い。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
例年、定数を上回る応募があるため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
必要な経費削減は、行っており、現状以上の圧縮は厳しい。				
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	例年、定数を上回る応募があるため。
今後の方向性 (見直しの視点)			
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 2

作成年月日: 平成28年6月1日

事務事業名	障害者問題啓発事業(ふれあいバザー)		所管課・係	障害者福祉課・庶務係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6466
予算書名称	障害者問題啓発事業費		執行実績報告書ページ	91-16

1 事業の概要

昭和56年から事業を開始している。 「すみだまつり・こどもまつり」に合わせ、錦糸公園内で開催している。 平成22年度～平成24年度は、公園改修の影響で体育館内で実施した。	事業開始年度	昭和56年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		障害者及び区民をはじめとした一般来場者	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		「すみだまつり・こどもまつり」において「障害者団体ふれあいバザー」を開催	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		障害者団体の活動について広く区民にアピールする	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	参加団体数	団体	目標値	11	9	9
			実績値	9	8	8
成果指標 (目的に対する指標)	売上総額	千円	目標値	900	900	900
			実績値	875	556	737
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)				屋外会場の為、天候の影響が大きい。		

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度 歳出予算額	414	27年度 歳出決算額	408	27年度 執行率	98.6%	28年度 歳出 予算額	414
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
障害者の活動を多くの一般区民に発信できる希少な機会であるため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
規模の大きい区民行事との併催であるため、客足が多く、有効性は高い。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
参加団体により設営物資数に変更が生じるため。				
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	大規模な区民行事との併催であり、障害者団体の活動をアピールできる数少ない機会である。今後も継続して実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	障害者団体の参加意欲を高め、PRの充実を図って行く。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 3

作成年月日: 平成28年6月1日

事務事業名	墨田区障害者施策推進協議会事業費		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6217
予算書名称	障害者施策推進協議会経費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

・本協議会は、障害者基本法第11条第3項の規定に基づく「市町村障害者計画」を審議する、同法第36条第4項に規定する合議制の機関である。 ・本区では、昭和56年の国際障害者年を契機に、障害者施策を総合的かつ計画的に推進するため、「障害者問題解決のための墨田区行動計画」(計画期間:昭和56年度～平成2年度)を策定した。その後、「障害者問題解決のための墨田区第2期行動計画」(計画期間:平成3年度～平成12年度)、「すみだノーマライゼーション推進プラン21」"墨田区障害者行動計画(第3期)"(計画期間:平成13年度～平成22年度)、「第4期墨田区障害者行動計画(前期)」(計画期間:平成23年度～平成26年度)を経て、平成26年度には、「第4期墨田区障害者行動計画(後期)」(計画期間:平成27年度～平成32年度)を策定した。	事業開始年度	昭和56年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		区民、区	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		墨田区障害者施策推進協議会(墨田区障害者行動計画、墨田区障害福祉計画の進行状況把握等)	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		ノーマライゼーション理念(障害のある人もない人も社会の一員としてお互いに尊重し支えあいながら、地域のなかでともに暮らせる社会)が普及・実現する	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	開催回数	開催回数	目標値	1	3	2
			実績値	1	3	2
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
会議において、障害者行動計画を中心に各事業の進捗状況を確認し、協議を行った。また、平成28年4月施行の障害者差別解消法に伴い策定した墨田区職員対応要領に関する意見聴取、協議を行った。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円)*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費
27年度歳出予算額	272	27年度歳出決算額	250	27年度執行率	91.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
使用料等の収入の有無	無	無	無	有		166
	無	使用料等名称				収入額
	0					
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		無				
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>障害者基本法第34条第4項に、本協議会の設置規定が置かれており、障害者行動計画の策定、推進についての協議、その実施状況の確認などについて定められている。実際に、障害福祉に関する事業を進めるうえで、本協議会の必要性は高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>当該年度の検討内容を考慮して、会議の実施回数を決定している。委員報酬などの経費も必要不可欠な範囲で計上、支出している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>会議実施の際の委員報酬が主たる支出であるが、必要な支出であり、さらなる削減は難しい。</p>				
(4)現状と課題	<p>協議の際、多くの出席者から意見聴取、意見交換ができるよう進めていく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>障害者基本法に基づく協議体であり、本区の障害施策を円滑に進めていくために必要な機関である。また、経費についても適切な範囲で支出している。協議内容の充実を引き続き進めていく。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>平成32年度で、現在の障害者行動計画が終わりとなるため、その年度には策定作業が必要となる。それまでは、現行の計画の進捗を協議し、都度、課題となる案件について機動的に協議をしていく必要がある。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	心身障害者雇用優良事業所顕彰		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6217
予算書名称	心身障害者雇用優良事業所顕彰		執行実績報告書ページ	91-18

1 事業の概要

昭和51年から障害者福祉大会事業の一環として表彰を行ってきたが、平成15年より表彰に係る事業を切り離し、内容を見直した上で実施している。根拠要綱は次のとおりである。 ・墨田区障害者雇用優良事所感謝状贈呈要綱 ・墨田区障害者福祉功労者感謝状等贈呈要綱	事業開始年度	平成15年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		事業所、障害者及び一般区民		に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		毎年12月に開催されるスマイル・フェスティバルの席上において、表彰し、感謝状等を贈呈する。		を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		(事業所)実績を一般区民に周知されることで、障害者雇用への意欲がさらに高まっている。 (障害者)式典で表彰されることで、更なる自立や障害者福祉向上への意欲が高まっている。 (一般区民)障害者雇用優良事業所や福祉功労者の存在を知っている。		状態にする。		
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	表彰対象者及び事業所数	件	目標値	5	5	5
			実績値	5	4	4
成果指標 (目的に対する指標)	参加人数	人	目標値	1,050	1,050	1,050
			実績値	1,050	900	900
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
大勢の参加者が見込まれるスマイル・フェスティバルにおいて本事業を実施することで、福祉功労者・障害者雇用優良事業所共に一定数の推薦があり、それを元に表彰を行っている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費
27年度歳出予算額	76	27年度歳出決算額	73	27年度執行率	96.1%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		76
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
スマイル・フェスティバルの席上での表彰による参加者等の動機付けは非常に大きい。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
毎年1回の実施であるが、多くの参加者があり、表彰対象者等の推薦も一定数ある。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
スマイル・フェスティバルの席上で表彰を行うことで、経費の削減が図られる。				
(4)現状と課題	スマイル・フェスティバルの席上で行うため、経費を削減できる反面、表彰にかけられる時間は、フェスティバルの進行に制約を受ける。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	自立生活者・障害者福祉功労者等を表彰することは、意識、意欲向上の点からも効果が高い。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も引き続き表彰を実施し、障害者の自立向上を図る。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	障害者理解啓発事業(すみだスマイル♡フェスティバル)		所管課・係	障害者福祉課・庶務係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6466
予算書名称	障害者理解啓発事業費		執行実績報告書ページ	95-13

1 事業の概要

平成26年度より、障害者福祉大会とふれあいフェスティバルを統合し実施。 根拠：区長単行決定	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
障害者とその家族及び一般区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
障害者週間(12/3~9)に合わせ「すみだスマイル♡フェスティバル」を開催し、障害者団体による演芸発表、福祉体験や補助犬のPR等のコーナー、福祉功労者及び障害者雇用優良事業への表彰等	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者・その家族及びボランティア等相互の親睦と交流を深めること。また、区民をはじめとする一般来場者へ向け、障害者福祉とノーマライゼーション理念の普及を図る。	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	参加者数	人	目標値		900	900
			実績値		900	1,200
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
本事業の趣旨は、障害者相互の交流と区民一般への障害者問題の啓発であることから、事業の周知をしつつ、実施を継続していくことにより、目的の達成を目指す。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	障害者自立支援費
27年度 歳出予算額	2,435	27年度 歳出決算額	2,255	27年度 執行率	92.6%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 有	都支出金 有	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
様々な障害者が一堂に会する貴重な機会であり、実施の必要性は高い				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
実施内容に検討の余地はあるが、会場の広さに限界がある。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
実施内容により事務工程が変わるため				
(4)現状と課題	まだ試行錯誤の段階であり、実施内容が確立されていない			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	まだ新しいイベントであり、実施内容が確立されていない。しかし内容を検討し改善して行くことにより、参加者の満足度や一般区民への関心を高めることが出来る。
今後の方向性 (見直しの視点)	啓発をすみだイベントホールで行う。 表彰と演芸は、曳舟文化センターで行い集客増を図る。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無
	要旨	無

事務事業名	地域福祉計画推進事業		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-1163(直)
予算書名称	地域福祉計画推進事業		執行実績報告書ページ	72

1 事業の概要

墨田区基本計画の保健・福祉分野の計画として、地域福祉計画を策定し、区の福祉・保健施策を総合的かつ計画的に推進する。 また、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムを通して、ボランティア活動の充実を図る。	事業開始年度	平成4年
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
1 墨田区地域福祉計画の着実な推進 2 墨田区地域福祉計画推進協議会の開催 3 墨田区地域福祉計画の策定及び改定 4 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
1 自分らしく、安心して暮らしていける 2 多様性を認め合いながら、共に生き、支えあう 3 身近な課題の解決に向け、ともに考え、行動していく 4 ボランティアに興味をもつ	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	住み続けたいと思う人の割合(定住意向)	%	目標値			
			実績値	-	83	-
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
定住意向は、前回より微増している。 平成27年度から「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会」に補助金を支出している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度 歳出予算額	5,400	27年度 歳出決算額	4,888	27年度 執行率	90.5%	28年度 歳出 予算額	812
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会補助金					
27年度 実績額	231	28年度 予算額	250	対象	すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会		
開始 年度	平成27年度	根拠法令	要綱なし(単行決裁)				
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>地域福祉計画は「社会福祉法」等により各地方自治体が策定することとなっている。社会状況の変化により、地域福祉の役割が増大傾向にある。 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会は、ボランティア活動の啓発等を目的としており、必要性が高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>地域福祉計画は、区、社会福祉協議会、社会福祉法人、区民等の地域福祉の主体に対し、推進の指針を示すものである。また、毎年、ボランティアフォーラムを実施し、約400人にボランティアに関する情報を発信している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>福祉関係の各計画と一体的に策定している自治体もあるが、各計画の法定期間がまちまちであり、難しい面もある。会場や実行委員会の予定を合わせるのが、難しい。</p>				
(4)現状と課題	<p>5年ごとの策定(または改定)を行うため、コストの評価には中長期的な視点が必要となる。地域福祉推進の取り組みの成果には目に見えないものも多いため、評価方法が難しい。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>地域福祉の考え方は近年ますます重要であり今後も区民との協働による計画策定と、各取り組みの実施、評価等を着実に実施していく必要がある。また、今後もボランティア活動の充実が必要である。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>地域福祉計画を推進していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	民生・児童委員協議会等経費		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6151(直)
予算書名称	民生・児童委員協議会等経費		執行実績報告書ページ	75

1 事業の概要

民生委員は、昭和23年に成立した民生委員法に基づき設置され、地域住民のもっとも身近な相談相手、専門機関へのパイプ役として様々な活動を行っている。 平成27年度民生委員・児童委員及び民生委員協議会に関する経費の都負担金交付要綱	事業開始年度	昭和46年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
民生委員・児童委員(定数209人、現員185人)で組織する7地区の協議会、全体協議会		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
民生委員が担当する事項を定めること、民生委員の職務に関する連絡及び調整をすること、関係行政機関との連絡調整をすることなどを組織的に遂行していくことにより円滑な運営を図る。		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
担当地域を越えた民生委員の相互連絡やチームワークによる、地域全体の福祉問題の解決、条件整備を目指し、地域の諸問題に組織的に対応できるようにすること。		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	全体協議会	回	目標値	8	6	6
			実績値	8	6	6
成果指標 (目的に対する指標)	全体会における民生委員・児童委員出席率	%	目標値	90	90	90
			実績値	90	90	90
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
民生委員の拠り所となっているうえ、民生委員同士の意見交換により必要な知識や技術の習得の場となっている。 また、個人の資質向上、自己啓発、地区を超えたネットワーク作りのため協議会・研修会等を計画通りに開催し、目標を達成している。 今後も情報交換や研修等が活発にできるよう支援していく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度歳出予算額	5,603	27年度歳出決算額	5,344	27年度執行率	95.4%	28年度歳出予算額	7,062
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区民生委員・児童委員協議会補助金					
27年度実績額	5106	28年度予算額	5,282	対象	墨田区民生委員・児童委員協議会		
開始年度	昭和46年	根拠法令	墨田区民生委員・児童委員協議会補助金交付要綱				
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
地域福祉活動の担い手としての民生・児童委員活動は非常に重要で、協議会運営を円滑に行うことで委員個々の活動サポートにつながるため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
民生委員・児童委員同士の横のつながりを地区会や全体会を通じて強化できているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
自主的に実施する事業と区のサポートの役割分担が明確であり、協力関係ができているため。				
(4)現状と課題	現在区内では、民生委員・児童委員が欠員となっている地域があり、その欠員状況を解消していくことが喫緊の課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	今後も民生委員・児童委員活動を円滑にサポートするため必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	民生委員・児童委員活動の周知活動の強化を図っていく。 欠員の解消に向けた取り組みを検討していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	民生・児童委員施設見学会事業		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6151(直)
予算書名称	民生・児童委員施設見学会事業		執行実績報告書ページ	75

1 事業の概要

民生委員・児童委員の資質向上を目的とし、先進的な取り組みをしている福祉施設等の見学を行う。	事業開始年度	昭和50年度以前
民生委員法第2条 墨田区民生委員・児童委員全体協議会要綱第3条	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田区民生委員・児童委員	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
先進的な取り組みをしている福祉施設等の見学	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
民生・児童委員の資質向上、自己啓発、及び地区を越えたネットワークを深める	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	施設見学会の開催	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	4	1
成果指標 (目的に対する指標)	施設見学会の参加人数	人	目標値		120	120
			実績値	121	127	123
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
<p>27年度は、福祉・介護ロボットの展示施設を見学し、ロボットスーツの遠隔操作体験を行った。</p> <p>後日、見学先が開発したりハピリ訓練用のロボットスーツが医療保険の適用になったとの報道があり、非常にタイムリーな見学会であった。</p>						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	民生児童委員費	
27年度 歳出予算額	864	27年度 歳出決算額	695	27年度 執行率	80.4%	28年度 歳出 予算額	1,762
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>不可欠とは言い難いが、目的達成の手段として有効なため継続実施が必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>研修は継続的に行うことで効果があるため、年1回程度の見学会・研修会は必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>主たる経費はバスの借り上げ代であり、経費的には効率的と考える。</p>				
(4)現状と課題	<p>本来は同一日開催が望ましいが、参加者が多いため受け入れ可能な施設を探すことが困難である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	施設見学会は、民生委員・児童委員の資質向上等に有効な方法の一つであるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	民生委員・児童委員の研修の一環として今後も充実を図っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	すみだ福祉保健センター管理運営事業、福祉保健センター在宅サービスセンターの運営費		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-1163(直)
予算書名称	4福祉保健センター費 1管理運営費、2事業等委託費、		3介護諸費 5高齢者在宅サービスセンター管理運営費	執行実績報告書ページ 77,87

1 事業の概要

(複合施設)昭和57年に墨田区が策定した「障害者問題解決のための墨田区行動計画」に基づき、福祉と保健にわたるサービスを総合的に提供するため、平成元年4月に墨田区が設置した。平成18年度からは、墨田区社会福祉事業団が施設管理者として施設の維持管理を行っている。 平成23年度指定管理再委託。(平成28年3月31日まで) 平成28年度指定管理再委託。(平成33年3月31日まで)	事業開始年度	平成元年度
	終了予定年度	なし(未定)

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	重度の知的障害者、心身に障害または発達の違いや、その心配のある就学前の乳幼児、小学校3年生までの児童(個別理学療法)、身体に障害のある方、区内の高齢者(60歳以上)の方、要介護認定を受けた方、高次脳機能障害と診断されている主に18歳~40歳未満の方、区内在住、在勤の健康な成人の方等	に対して
----------------------------	---	------

【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	日常生活の支援、機能訓練、各種相談、教養や能力を高める講座の実施、健康づくり教室	を実施したことで
-------------------------------------	--	----------

【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	障害者(児)の自立や日常生活能力の向上、生きがいづくり、高齢者の心身機能の維持・向上、生きがいづくり、健康な成人に対する生活習慣病の予防と健康の維持増進等が望める	状態にする。
-------------------------------------	---	--------

目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	福祉保健センター利用者数(各事業総合計数)	件	目標値			48,000
			実績値	47,615	47,304	47,447
成果指標 (目的に対する指標)	委託料:指定管理費(高齢者デイ除く)	千円	目標値			29,411
			実績値	258,179	272,752	276,465

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
利用者は、ほぼ横ばいであるが、機能訓練など一定のケアが必要な方のために必要な施設となっている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費 老人福祉費	目	福祉保健センター費 / 介護諸費
27年度 歳出予算額	508,729	27年度 歳出決算額	476,711	27年度 執行率	93.7%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 有	都支出金 有	その他 有	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		社会福祉事業団運営費補助金				
27年度 実績額	97,173,000	28年度 予算額	113,166	対象	社会福祉事業団の運営費	
開始 年度	平成元年	根拠法令	社会福祉法人に対する助成に関する条例			
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
障害者通所施設は代替可能な施設が少なく、機能訓練、講座受講者は利用者が多い。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
機能訓練・相談業務のほか、各種講座を開催し多くの方が参加している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
適切に運営されている。				
(4)現状と課題	築後28年になり、修繕箇所が多くなっている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	的確に事業運営が行われている。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者サービス向上のため、運営協議会などの連絡会の充実を図る。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	平成27年10月30日決算特別委員会
	要旨	重度肢体不自由児(者)のために、福祉保健センターの入浴室を改修して利用できるようにしてほしい。

事務事業名	ボランティアセンター管理運営費		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-1163(直)
予算書名称	ボランティアセンター管理運営費		執行実績報告書ページ	73

1 事業の概要

社協が行うボランティア推進事業(ボランティアセンター運営)に対して財政的援助を行うことにより、ボランティアの育成・活動支援を図り、福祉のまちづくりを推進する。 また、ボランティアセンターの指定管理に係る経費を支出する。	事業開始年度	昭和60年
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
ボランティアに関する相談・登録・紹介や施設・機材の利用及び講習・講座の実施などのボランティア業務を行い、ボランティア意識の浸透を図ること					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民・各種団体及び墨田区が一体となってボランティア活動の育成と基礎づくりの推進を図っていく					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	小地域福祉活動事業の実施状況	地区	目標値	19	22	25
			実績値	19	22	27
成果指標 (目的に対する指標)	ふれあい・いきいきサロン活動の実施状況	地区	目標値	23	24	23
			実績値	19	18	21
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
区民が地域で支えあい・助けあう仕組みづくりの一つとして、区と社協とで進めている小地域福祉活動である。 小地域福祉活動については民生委員・児童委員や町会・自治会の活動に対する理解が進んだため、5地区増と順調に増えている。 ふれあいサロンは3地区の増だが、まず、ふれあいサロンから始めて小地域福祉活動に移行するケース(H27は2件)があるため、実際には5地区増えている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度 歳出予算額	44,487	27年度 歳出決算額	42,701	27年度 執行率	96.0%	28年度 歳出 予算額	41,365
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		すみだボランティアセンター管理運営					
27年度 実績額	36,214	28年度 予算額	35,943	対象	社会福祉法人墨田区社会福祉協議会		
開始 年度	昭和62年	根拠法令	すみだボランティアセンター条例 社会福祉法人に対する助成に関する条例				
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
地域福祉の担い手として今後ますますボランティア活動の活性化が必要である				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
身近なところでのボランティア活動の増加は地域福祉推進の観点から有用である				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
(4)現状と課題	地域福祉の担い手として、若年層の取り込みが課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	ボランティアの育成は地域福祉の実現に欠かせない部分である。現在取組んでいる災害ボランティアの育成など、必須の要件である。
今後の方向性 (見直しの視点)	地域を巻き込んだボランティアの育成を図り、地域福祉を推進する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	墨田区原爆被害者の会補助金		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6151(直)
予算書名称	各種団体補助金		執行実績報告書ページ	73

1 事業の概要

健康及び生活等の問題解決にあたりとともに、被害の実態を訴えるための活動や平和の尊さを広く普及するための活動として、広島・長崎で開催される平和記念式典への代表派遣、平和・原爆写真展開催等の事業を行っている。	事業開始年度	昭和59年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
墨田区原爆被害者の会					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
墨田区原爆被害者の会(墨田折鶴会)の運営費の一部を助成する補助金の交付					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
区内の原爆被害者で組織する墨田原爆被害者の会(墨田折鶴会)に対して運営費の一部を助成することにより同会の円滑な運営を促進する。					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)					目標値			
					実績値			
成果指標 (目的に対する指標)					目標値			
					実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
原爆写真展の開催(27.8.12~14) 入場者数640人 平和祈念式典への参加 広島2人、長崎1人 会員状況(28.3.31現在) 31人								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度 歳出予算額	320	27年度 歳出決算額	320	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	320
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	0
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区原爆被害者の会補助金					
27年度 実績額	320	28年度 予算額	320	対象	墨田区原爆被害者の会		
開始 年度	昭和59年度	根拠法令	地方自治法第232条の2				
算定基準				補助率	団体運営に対して年間320千円の補助金交付		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
補助金交付により同会の事業運営に役立っている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
平和の大切さを啓発するのに役立っている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	原爆被害者支援の観点から、会の円滑な運営に資するものであるため
今後の方向性 (見直しの視点)	当面は、現状のまま継続していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	墨田区母子寡婦さくら会補助金		所管課・係	厚生課厚生係
施策	421	福祉に対する理解を広め、地域活動への参加を促進する	連絡先	5608-6151(直)
予算書名称	各種団体補助金		執行実績報告書ページ	73

1 事業の概要

区内の母子寡婦世帯で組織する会に対して、運営費の一部を助成することにより、同会の円滑な運営を促進する。	事業開始年度	昭和59年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
墨田区母子寡婦さくら会					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
墨田区母子寡婦さくら会の運営費の一部を助成する補助金の交付					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
区内の母子寡婦世帯で組織する会に対して運営費の一部を助成することにより同会の円滑な運営を促進する。					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)					目標値			
					実績値			
成果指標 (目的に対する指標)					目標値			
					実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
親睦会の実施 年1回(山梨への日帰りバスハイク) ボランティア祭りの実施(27.11.1)柳島小 会員状況(28.3.31現在) 71世帯								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度 歳出予算額	80	27年度 歳出決算額	80	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	80
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	0
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区母子寡婦さくら会補助金					
27年度 実績額	80	28年度 予算額	80	対象	墨田区母子寡婦さくら会		
開始 年度	昭和59年度	根拠法令	地方自治法第232条の2				
算定基準				補助率	団体運営に対して年間80千円の補助金交付		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
補助金が母子交流等の事業運営に役立っている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
母子福祉の増進に役立っている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	補助により、母子交流や福祉の増進に役立っているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	当面は、現状のまま継続していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	